

<h1>SDT</h1>	<h2>制振工学研究会通信</h2> <p>SOCIETY OF DAMPING TECHNOLOGY NEWS</p> <p>2009年8月号</p>	<p>2009年 8月 1日発行 編集 集：会報編集委員会 編集責任者：小白井 敏明 担 当 者：山口 道征 URL http://www.sdt-jp.com E-Mail：sdt@mbi.nifty.com</p>
--------------	--	---

◇お知らせ

・本通信により会員各位に有用な情報を提供すべく毎月の編集会議では頭を悩まして議論しております。つきましては、ここで取り上げてほしい事がございましたらそのご要望を次のアドレスまで是非お寄せください。

E-MAIL:yamagu@pc.highway.ne.jp

◇研究会の行事案内

開催日時	開催地・会場	名 称	内 容
09.08.28 13:00~19:00	工学院大学・新宿校舎・28F 第4会議室	第22回定期総会	総会・特別講演会・懇親会

◇委員会・分科会・WGの予定

開催日時	開催地・会場	名 称
09.08.05 13:00~17:00	B&Kジャパン会議室	計測・評価技術分科会、音響管計測WG
09.08.21 15:00~17:00	リオン(株)会議室	会報編集委員会

◇会員消息 (2009年 8月 1日現在)

○会員数		○入・退会者	
法人会員	34 社		
個人会員	59 人	個人会員(退会)	梶原逸朗

◇関連学協会等の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	主催団体及び内容
09.08.3	鹿島建設技術研究所 サントリー武蔵野ビール工場 (東京都・調布市・府中市)	講演と見学の会	日本材料学会 http://www.jsms.jp/index_4.html
09.08.3-8	北海道大・札幌キャンパス (北海道・札幌市)	Dynamics and Design Conference 2009	日本機械学会 http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2009/
09.08.27	東部ビル5F. 会議室 (東京都・港区)	第154回ゴム技術シンポジウム	日本ゴム協会 http://www.srij.or.jp/gyouji/index.php

◇第22回定期総会のお知らせ

制振工学研究会 第22回定期総会開催日程

日 時 : 2009年 8月28日(金) 午後1時~1時45分
 会 場 : 工学院大学新宿キャンパス28F. 第4会議室
 〒163-8677東京都新宿区西新宿1-24-2
 Tel. 03(3342)1211(機械システム工学科・大石久己先生)

次 第 :

開 会 の 辞
 挨 拶
 議 事

司 会 井 上 茂 副 会 長
 岡 村 宏 会 長
 議 長 井 上 茂 副 会 長
 山 口 道 征 庶 務 幹 事
 中 沢 貞 夫 会 計 幹 事
 塩 瀬 隆 範 監 事
 山 口 道 征 庶 務 幹 事
 中 沢 貞 夫 会 計 幹 事

1. 2008年度事業報告
2. 2008年度収支決算報告
3. 2008年度会計監査報告
4. 2009年度事業計画(案)
5. 2009年度収支予算(案)
6. その他

閉会の辞

井 上 茂 副 会 長

(裏面へ続く)

総会に引き続き、特別講演及び懇親会を開催します。

○特別講演（午後2時00分~3時15分）

「MR流体とその応用展開」

ロト・ファースト Inc.

出頭 茂 氏

MR流体(Magnetorheological Fluid)は、そのままではニュートン流体に近似する流体であるが、磁場を印加するとその強度に応じて、降伏応力をもつ半固体に変化する機能性流体である。LORD社は、これまで20年近く、その原料や配合処方の開発を続け、安定で耐久性を持つMR流体を製造販売している。その特性を生かした装置には、ショックアブソーバやブレーキなどがあり、乗用車、大型車両、産業車両、橋梁、航空宇宙など、さまざまな分野で使用されている。しかし、とりわけわが国ではその用途が開発し尽くされたとは程遠い現状である。本講演では、MR流体の組成、性状をはじめ、機器への応用展開を紹介し、また欠点とされる性状の克服の現状、将来の応用展開の展望について述べる。

司会：音環境技術研究所

小白井 敏明 氏

○特別講演（午後3時30分~4時45分）

「エネルギー原理による粘性の発生メカニズム」

法政大学工学部機械工学科

長松 昭男 教授

減衰を有する系の運動方程式は、一般には非線形になるが、粘性だけは線形の運動方程式を構成する。線形運動方程式はエネルギー原理から導かれることから、粘性の正体はエネルギー原理の立場から説明できるはずである。しかしこれまで、粘性の発生メカニズムは不明とされていた。筆者は、これに対する研究を続けており、一応の結果を得たので、下記の本にその解を記述した。

「長松昭男著：機械の力学，朝倉書店，2007」。本講演はその説明であり、概要は下記のとおりである。

1. ポテンシャルエネルギー場が粘性を発現する理由
2. 原子・分子間ポテンシャルによる粘性の発生メカニズム
3. 粘性による力学的エネルギーの散逸機構
4. 粘性が速度に比例する抵抗力を生じる理由
5. 粘性を用いた固体・液体・気体の物性の発生メカニズムの説明

司会：音環境技術研究所

小白井 敏明 氏

○懇親会（午後5時~7時）

会費：一人 3,000円

以下の出欠表をご提出ください。

制振工学研究会御中(FAX:03-3543-0619 or Eメール:sdt@mbi.nifty.com)

第22回総会に、出席します。

貴社名・貴団体名

氏 名

委 任 状(欠席の方)

総会の議事一切について議長に委任いたします。

2009年 月 日

貴社名・貴団体名

氏 名

制振工学研究会御中(FAX:03-3543-0619 or Eメール:sdt@mbi.nifty.com)

第22回総会特別講演に、出席・欠席 します。

貴社名・貴団体名

氏 名

第22回総会懇親会に、出席・欠席 します。

貴社名・貴団体名

氏 名

◇制振工学ハンドブック、計測自動制御学会賞受賞

ハンドブック編集委員代表・長松昭男前会長宛、計測自動制御学会より下記、連絡がございました。

制振工学ハンドブック編集委員会殿 委員代表 長松昭男殿

このたび2009年度計測自動制御学会賞が決定し、貴殿に「著述賞」を贈呈することになりました。つきましては、ICROS-SICE International Joint Conference(8月20日福岡国際会議場)で学会賞を贈呈しますので、ご出席ください。

事務窓口

〒101-0061東京都中央区銀座 2-10-18 社団法人 日本合成樹脂技術協会

Tel. 03-3542-0261

Fax. 03-3543-0619

URL <http://www.sdt-jp.com>

E-Mail:sdt@mbi.nifty.com